

高等学校 3年次国語科（国語表現）での実践事例

単元名「方言と共通語」

香川県立飯山高等学校 教諭 十川 美保

アクティブ・ラーニングの視点からの工夫

- 自分たちが回答した方言に関するアンケートを資料とし、興味・関心を高め、主体的に学習できるようにした。
- 課題を解決するためにグループで話しあい、自分の考えを深め次の課題をみつけられるようにした。

1 学習指導過程（本時 2 / 3）

○目標

- ・自分たちが調査した結果をまとめた表やグラフを見て、分析し、考察する。
- ・自分たちの普段使っている方言について考えを深め、レポートを書く準備をする。

学習活動	指導上、留意した点
<p>1 課題の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時にまとめたアンケート結果の表とグラフを見せ、本時の課題を確認する。 	<p>主・身近な話題であり、自分が調べ、自分も含むアンケート結果が表やグラフになることで、興味・関心を高める。</p>
<p>飯高生の方言の調査結果はどうだったか、どうしてこのような結果になるのだろうか。</p>	
<p>2 調査結果の分析と考察を行う。</p> <p>(1) 自分の考えをワークシートに書く。</p> <p>(2) 考えをグループで交流する。</p> <p>(3) 全体で話しあう。</p> <p>3 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のワークシートに考えをまとめる。 	<p>対・自由にグループを作り、考えを交換する。</p> <p>深・グループから出た問題点を3つに分けさせ、全体でなぜそうなるのか考えさせる。</p> <p>主・グループで話しあったことを、自分のことばでまとめ、ワークシートに書かせる。</p>
<p>〔期待する児童生徒のまとめのことば〕</p> <p>飯高生の通学範囲は、中讃地域であり、西讃のことばと東讃のことばが混じっていることがわかった。その中でも言葉により違いがある。また、知らないことばが多い。それらはなぜ起こるのかを自分たちなりに考えた。しかし今回の調査だけではわからない。今後、地域による違いや年代による違いを調べていくことで、明らかにしたい。</p>	

2 実践後の成果と課題

- 自分の使っている言葉を資料として取り扱うことによって、関心を持って取り組むことができた。
- 何をポイントに見ればいいのか分からない生徒がいたが、友達の見解を参考にして一緒に考えることができた。
- わかったこと、わからないこと、考えたこと、疑問に思うことを区別する習慣がついていない生徒が多かったが、ワークシートを使って整理することによって、考えの道筋がわかったようだ。
- ここでしたアンケートをまねて、「総合的な学習の時間」のレポートづくりにアンケートを実施した生徒が出たのは良かった。

3 本実践での課題

- 自分たちのことなので、あたりまえ過ぎて客観的に見るのが難しく、指導者がヒントを出さないと、自分たちだけで意見を深め、次の課題をみつけていくことが難しい部分があった。
- 今回は、自分たちでアンケートを作成させ、集計、グラフの作成を行わせてみたい。